2023年
10月 みやま
第305号

病院理念
『患者さまの不安をとること』
当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会　平川病院
〔ホームページ〕http://www.hirakawa.or.jp/

病院医療機能評価準備委員会の様子

11月に日本医療機能評価機構の6回目の審査を受けます

院長　平川 淳一

公益財団法人日本医療機能評価機構は、病院の組織的活動を患者さんの目に触れない部分も含めて第三者として評価し、病院の優れている点や課題を明らかにする事業をしています。審査の結果、一定の水準を満たしていると認められた病院に対して認定証を発行します。当院は、平成10年（1998年）6月に精神科単科病院では全国で4番目、東京都では1番初めに認定を受け、以来25年間、5年ごとに更新のための審査を受けながら病院の機能向上に努めてきました。来月6回目の審査となります。審査の内容、方法も時代のニーズと共に進化し求められる事項も増えてきていますが、当院なりに対応してきたつもりです。私は日本医療機能評価機構の受審は健康診断のように思っています。自分では健康だと思っていてもそうでない場合もあります。ときどき第3者目線で病院の内外を見ていただくことはとても重要なことだと思います。誰でも外部からお客さんがいらっしゃることになると少し家の中の掃除をするように、平川病院の職員も身の回りを見直して受審の準備をしています。これをきっかけにたくさんの気付きをいただき、さらに良い病院にできれば嬉しいことだと思います。

【表紙】院長あいさつ　【P2】八王子市民のための発達障害支援総合ポータルサイトを作りました
【P3】精神障害にも対応した地域包括ケアシステム④　【P4】病棟たより（南３病棟）【P5】事務室から
【P6】高度医療機関からも受け入れています！　【P7】こころの扉　【P8】摂食嚥下講演会を開催しました

地域生活支援室より

八王子市民のための発達障害支援総合ポータルサイトを作りました

発達障害診療医長　渡部 洋実

2018年7月に当院で発達障害外来を開始してから、日々感じたことは、「発達障害の診断を受けたあと、八王子のどこへ行って相談したらよいのか？」「どこに、どういったサービスがあるのか？」「子どもの頃に受けた検査の結果や療育のデータはないのか？」ということでした。東京都には東京都発達障害支援センター（こどもTOSCA／おとなTOSCA）がありますが、広域であり地域の細かい情報や個別支援の中心はやはり市区町村単位で中心となるものが必要と考えます。八王子市は56万人規模と中核都市規模の人口がありますので、発達障害支援センターの設立やコンシェルジュ機能を持つ相談窓口の設立、ポータルサイトの設立などがあると望ましいと思い、まず医師会を通じて市長や市の関係部署に要望書を提出し、その後も市の関係部署の方や市議会議員の方々など、何度か意見交換会を行いました。市議会で取り上げて頂いたり、発達障害関連で予算がついたり、徐々に発達障害の問題に目を向けて頂いているように思います。

一方、病院では日々待ったなしに支援を要する大人の発達障害の方が来院されますので、少しでも早くお役に立てればとの思いから発達障害に関する情報提供サイトを独自に作りました。診療の合間に記事を書いたり、情報公開の許諾を施設に確認したりするために時間を要しましたが、2023年9月1日にようやく公開に至りました。知りたい情報をクリックするとその記事が読める、感覚的に地図をクリックして広げると、そこの情報に飛んで、ホームページへ直接アクセスできる、年齢やサービスの種類で検索できる、など「使いやすい」を目指しました。施設情報などは八王子市に限りますが、疾患や制度に関する記事やコラムは他の市区町村の方もお役に立てる情報だと思います。

まだまだ関連情報やリンク先など、コンテンツを増やしアップデートしていく必要はありますが、ひとまず公開にこぎつけ、安堵しているところです。読みたいコラムや記事などご意見がありましたらお気軽にお知らせ下さい。

「八王子市民のための発達障害支援総合ポータルサイト」

http://hachioji-hattatsu.jp/

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム④

グループホーム美山ヒルズ　世話人　廣井 亮

今号では、八王子市の「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」（以下「にも包括」）の協議の場についてお伝えします。

八王子市の精神保健福祉における取組としては、平成19年より「八王子市地域精神保健医療福祉推進会議」が年1回開催されていました。この会議は八王子市における精神保健医療福祉活動を総合的かつ効果的に推進するための協議の場として設置されており、精神保健福祉活動の推進、知識の普及啓発、精神保健福祉関連組織・団体の育成やネットワーク構築に関することなどをこれまで協議してきました。

令和5年、この八王子市地域精神保健医療福祉推進会議の開催要項が改正され、改めて「にも包括」の方針決定を行う場としてこの会議が位置づけられました。（施行は令和5年3月1日、適用は令和4年4月1日から）

会議委員は医療機関や福祉関係機関、民生委員、警察、家族会、庁内関係機関などから構成されており、これまでも「にも包括」についての協議がされてきましたが、構築のための体制整備がなされたことになります。加えて、平成27年より精神科医療機関や福祉関係機関、家族会など保健・医療・福祉の実務に携わる様々な団体が情報や意見の交換を行う場として、「八王子市地域精神保健医療福祉実務者連絡会」が年1～2回開催されており、その下に令和4年度、「にも包括」のワーキンググループが設置されました。

八王子市は医療機関や施設が数多くあるエリアであり、これまでも多くの事業を行ってきました。「にも包括」ではそれらを活かしつつ、より良い体制を構築していくことを目指します。実務者連絡会では、今ある事業を共有し、その上で実務者として抱える課題をあげ、検討し、推進会議に「にも包括」構築のための提案を行っています。

八王子市精神保健医療福祉　会議体の体系図

八王子市地域精神保健医療福祉推進会議（協議の場）

連携　情報共有

開催：年1回
目的：八王子市における精神保健医療福祉活動を総合的かつ効果的に推進する
役割：にも包括の協議の場として、方針決定を行う
委員：精神科医療機関、福祉関係機関、民生委員、警察、家族会、庁内関係機関　等

八王子市地域精神保健医療福祉実務者連絡会（情報・意見交換の場）

連携　情報共有

開催：年1～2回
目的：精神障害者が安心して地域で暮らせる支援ネットワークを推進する
役割：にも包括について実務者として協議、検討を行う
委員：精神科医療機関、福祉関係機関、家族会、訪問看護、地域活動支援センター　等

にも包括ワーキンググループ　（愛称：あるね八王子）

開催：年4回程度
目的：にも包括の推進に向け、具体的な課題の抽出や取り組みについて協議する
メンバー：医療、福祉、訪問、就労、庁内関係機関　等

看護学生受け入れ病棟の楽しさ

南3病棟　主任　黒部 美恵

南3病棟では、患者様・ご家族のご理解とご協力のもと毎年看護学生の臨地実習受け入れを行っています。今年度は、老年看護学実習Ⅱと精神看護学実習の2領域において、11名の学生の受け入れが予定されています。看護の臨地実習は、看護職者が行う実践の中に学生が身を置き、看護職者の立場でケアを行います。実際に看護する喜びや難しさとともに、自己の新たな発見を実感しつつ、患者様に対する責任を認識できる大変貴重な場となっています。しかし、看護師基礎教育は社会のニーズに応じて改正されており、1科目当たりの実習時間は20年前の約半分になっているという現状があります。短期間で如何に学びを深め、看護師になりたい！ここで働きたい!!と感じてもらえるか、工夫を凝らし病棟スタッフ全員でWelcomeボードを作成し歓迎しています。中国・ベトナムのスタッフは母国語でメッセージを送ってくれています。そして、学生からのメッセージは私たちの士気を高めるパワーの源ともなっています。正にエール交換です!!また、患者様が学生のケアに刺激を受け、変化がみられると、私たちスタッフも喜びを感じますし、最新のケアの導入などスタッフが学生から学ぶことも多々あります。写真はWelcomeボードと学生さん考案の不安をとるトイレです。平川病院の「患者さまの不安をとる」という理念とも一致していて素敵でしょう？

2025年問題では看護師が余るという話を見聞きした方もいるかもしれませんが、実際には労働人口が減少し看護師をはじめとした医療従事者の不足が懸念されているようです。そんな中での人材確保は容易ではないでしょう。だからこそ工夫を凝らし主体的に学べる環境づくり、やっぱり看護師になりたいと思えるような体験が必要なのではないでしょうか。

そんなことを考えながら病棟全体で協力して楽しんでいます。

マイナンバー保険証　お使いになりましたか？

事務室から

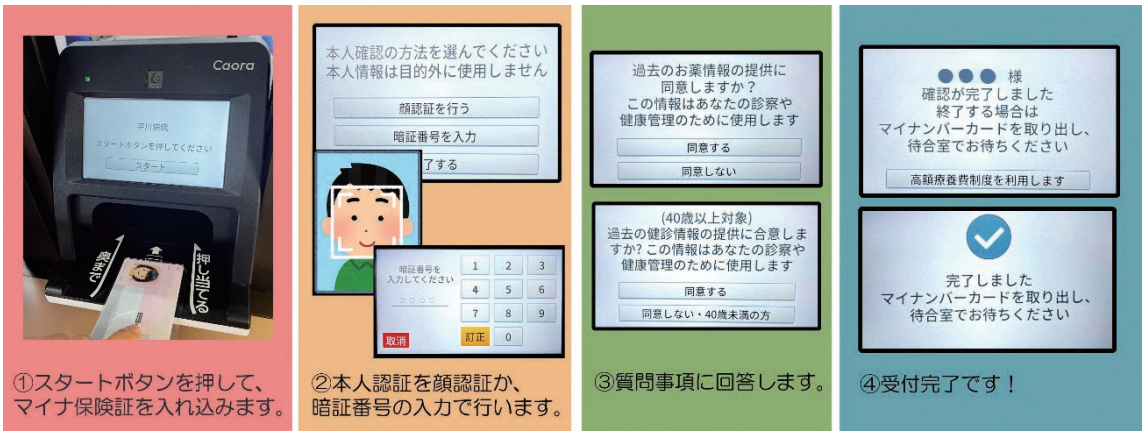
事務部　医事課　藤田 紗知子

私たち医事課は、窓口業務や外来・入院の医療費の会計業務を担当する部署です。今回は話題のマイナンバー保険証（以下マイナ保険証）についてお話をさせて頂きます。

平川病院ではマイナ保険証をご利用いただけます。保険情報とマイナンバーが紐づけされることで、オンラインにて保険証の資格確認を行うことができるシステムです。

国がマイナ保険証の利用を推進する為、提示する場合としない場合に、保険の点数に差を付けています。マイナ保険証を提示した場合、保険点数が初診の方は4点分（3割負担の場合10円～20円）、再診の方は2点分（3割負担の場合10円程度）のご負担が減るというメリットがあります。

医療機関によって読み込み機器の違いがありますが、当院では「Caora」を導入しており、初診・再診窓口（左側）に設置しています。受付はこのような流れで行います。



①スタートボタンを押して、マイナ保険証を入れ込みます。

②本人認証を顔認証か、暗証番号の入力で行います。

③質問事項に回答します。

④受付完了です！

ご覧いただいた通り、「かざすだけで受付」とはいかないのが少し難点です。
ご利用にあたり、準備をしておくとスムーズに受付出来る方法をご紹介いたします！

①ご来院前にマイナンバーカードの暗証番号をご確認ください

カードの認証には、顔認証か暗証番号が必要になります。顔認証が上手くいかないケースもみられますが、その場合は暗証番号が分からないと保険情報の確認が行えません。必ず暗証番号を確認の上ご来院ください。

②保険証原本の提示のご協力をお願いしています。

保険証とマイナンバーカードが紐づけされていない方、保険証が変わったばかりの方はオンラインで保険情報が確認できないケースがあります。保険証の原本も必ずお持ちいただき、受付にご提示をお願いしております。

マイナ保険証は導入されたばかりで、現在は分かりにくい部分やご不便をおかけする部分もありますが、今後整備が進めば、さらに便利になるのではないかと期待をしております！

今後は現行の保険証が廃止され、「マイナ保険証」か「資格確認書」による保険資格確認に移行される予定となっています。ますます身近になるマイナ保険証を皆様もご利用になってみてはいかがでしょうか？

高度医療機関からも受け入れています！

医療の質向上促進委員会　リハビリテーション科　梅澤 奈保

精神科病院で「リハビリ」と言えば、精神科OTを想像する方が多いと思いますが、リハビリには当然身体リハビリもあります。当院は精神科OTだけでなく身体リハビリにも力を入れている、日本でも数少ない病院です。身体リハビリのスタッフは20名を超え、リハビリ室も広く、大学病院や総合病院にも引けを取りません。当院では精神疾患に骨折や麻痺などの身体障害を合併した多くの方々がリハビリに取り組んでいます。なかには精神疾患の影響で高所から飛び降りるなどの自傷行為に至り重度の身体疾患を負った方々もいます。今回は、そうした重度身体疾患の患者様がどのような所から当院に入院してくるのか調査しました。

地区	3次救急	2次救急	精神科病院	その他
23区	15病院　54人			
多摩地区	7病院　88人	5病院　7人	5病院　5人	2施設　3人
他県	8病院　12人		1病院　1人	

総数
42病院
170名

3次救急とは？

平成25年4月～令和5年8月までの期間で自傷行為後に当院へリハビリ目的で入院した患者様を調査した結果、42病院から170名が入院されていました。内訳をみると、3次救急病院が最も多く、多摩地区、23区に限らず千葉や群馬など他県からの依頼もありました。3次救急病院では手術などの高度な緊急処置を行いますが、術後のリハビリまで含めた治療を全て行うことは困難です。そのため、ある程度長期間入院できる病院へ、患者様に転院していただくことが一般的です。しかし、精神科医療と術後リハビリの双方が行える病院は多くはありません。そこで、精神科病院でありながら専門的な身体リハビリも行える当院で転院を受け入れており、その結果として3次救急病院からの転院が最も多い結果に繋がっています。 とはいえ、重症身体疾患の患者様を受け入れてリハビリを行う事は簡単な事ではありません。3次救急病院から短い期間で当院へ転院となった場合、身体面の問題が解決しきっていないケースが多くなります。整形外科・脳外科・神経内科・皮膚科など本来なら多数の診療科に跨る問題にまとめて対応する事が必要となるため、精神科だけでなく幅広い領域において高いスキルを持ったスタッフが必要不可欠です。 また、現実的には当院でも対応困難なケースがあります。紹介されてくる全ての患者様を受け入れることが理想ですが、できる事とできない事を見極めて他院での治療をお勧めすることが患者様の利益に繋がることもあります。そのため、入院を決定する前に患者様やご家族様に事前に来院していただき、経験豊富な医師や相談員との話し合いの機会を持つ事も必要となります。

当院は平成18年に精神身体合併症病棟を設立してから17年となります。その日々のスタッフの努力がこのような実績へと繋がっています。今後も患者様に向き合い専門性を発揮し治療に取り組んでいきます。

こころの扉　その221
～「トラウマ」について知っていますか？～

心理療法科　公認心理士　桐生 佑紀子

最近、トラウマのケアに関する内容の研修に参加してきました。みなさんは「トラウマ」という言葉を聞いたことはありますか？わざわざ調べて知っているという方は少ないかもしれませんが、この言葉を日常の中で使ったことがあるという方は少なくないのではないでしょうか？というのも、世間では個人にとって深刻さの程度はあれどもショッキングな出来事を体験した際にそれが辛い感情体験として心に残ってしまう、思い出してしまうという意味で広く使われているように思います。例えば、「昨日電車の中で急に知らない人が怒りだしてさ、もうトラウマだよ～」、「靴を履こうとしたら虫がいて、トラウマで靴履くの怖くなっちゃったよ」等、日常会話でも使われることはきっと多いですよね。

さて、今回私が学んだ「トラウマ」は専門職向けの内容でしたので、上述したような理解や使い方とは少し異なります。トラウマを別の言葉に言い換えると、心的外傷体験となります。分かりやすい言葉ではこころの傷、と言うとイメージしやすいでしょう。体の怪我のように傷の程度が目でみてすぐ理解できるものではなく、かつ薬を塗ったり包帯を巻いたりして直接手当てすることも難しいです。また、トラウマにおいては体験した出来事が軽微か否かという事実だけでなく本人の傷つきや苦痛の程度を重視することが重要となります。

ケアと支援においては大きく3つの段階に分けることができ、第一段階はすべての人が対象となるトラウマ・インフォームドと呼ばれ、支援に携わる人々がトラウマに関する基本的な知識や対応方法を身につけた上で、注意や関心、配慮を持って関わることを指します。この第一段階は公衆衛生と同等となるので、例えば風邪予防に手洗い・うがい・咳エチケットが大事であると広く知られているのと同様の位置づけになります。第二段階はリスクのある人が対象となる初期対応（早期発見・介入）、第三段階は日常生活に支障がある人が対象となるトラウマに特化した個別の治療・支援が行われます。

また、トラウマ体験の記憶について誤解されやすいのが「時間が経てば薄れる」というものです。普段の出来事であれば時間が経てば忘れていきますが、トラウマの場合はより恐怖心が強くなるということが特徴です。日常生活において恐怖心や危険が積み重なっていくため、様々なところで支障が生じます。安全なものまで危険なものとして感じてしまうようになるため、日常生活場面において安全と危険を区別できるようになること、安心感を得られるようになることがとても重要です。

トラウマに関する正しい理解を身につけておくだけでも、誤った知識や対応によってご本人を傷つけることを防ぐことに繋がります。少し専門的な内容ではありますが、多くの方に知って頂けると良いなと思います。

摂食嚥下講演会を開催しました

企画室　山中 裕司

講師の石山先生

令和5年9月30日に、東京たま未来メッセにて『摂食嚥下講演会』を開催致しました。

今回の講演は日頃より当院にお越し頂いている国際医療福祉大学の石山寿子先生を講師としてお迎えしました。石山先生は言語聴覚士として、長年臨床現場に携わられ、現在は准教授として学生指導にあたっておられます。

講演会では、嚥下の機能や役割を分かりやすく解説し、市民の方々をはじめ、スタッフの方も聞き入っており、あっという間の1時間となりました。50名と多くの方々に参加を頂き、講演後は、参加されたご自身やそのご家族の嚥下に関する質問が多くみられ、前回講演をして頂いた、日本大学歯学部教授の植田先生が質問に答えてくださる場面もあり、大変活発で有意義な講演会となりました。

参加された方の中には、「嚥下に関する施設ができると、大変ありがたく心強いです」とお話しされた方もおり、嚥下機能の低下というのは身近な問題で、多くの市民の方が不安を抱えている事を改めて強く感じました。

次回の摂食嚥下講演会は、令和5年12月24日に再び石山先生にご登壇頂き、東京たま未来メッセ第2会議室にて開催を予定しております。皆様、是非ご参加ください。

講演会の様子

平川院長の挨拶

熱心に聞き入る参加者の皆様

植田先生

編集後記

バスケット、ラグビーのW杯が開催。普段見ていないのに応援をします。ラグビーと言えば、スクールウォーズ世代の私たちの頃、トライは4点（今は5点）だった。ペナルティゴール（ＰＧ）が３点であり、得点狙いでＰＧが多発された為、トライの得点をお得に？した。バスケットもシュートは基本２点であるが、３ポイントが誕生。これは一気逆転し易い展開狙いとか。時代を感じます。残暑厳しくスポーツの秋とは・・・短い秋を楽しみましょう。

医療法人社団光生会 平川病院
東京都八王子市美山町１０７６
電 話 ０４２－６５１－３１３１
FAX ０４２－６５１－３１３３
編集　平川病院　広報委員会
ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp